

津房地区まちづくり協議会だより

～心かよい 人が輝く ふるさと つぶさ～

津房地区の皆様へ
まちづくり協議会の事務局は
月・火・木の週三日開いています
ご意見などお寄せ願います。

若者定住促進住宅の 進捗状況です

前号で着工状況をお知らせしてから約2ヶ月経ちましたが、建築工事はこの間も着々と進み、左に掲載の写真のとおり、3棟とも建物外部はほぼ出来上がり、内装仕上げに掛かっているところとあります。

当津房郷で新築住宅が3棟も並ぶ風景などは滅多に見られないことで、様子見に出かけるたびになぜかウキウキした気分になります。

入居者募集を担当する市・観光まちづくり課からの情報によれば、すでに1棟については予約が入ったようですが、残り2棟については期間を来年1月まで延長して募集中です。

ご親族、お知り合いなどで、現在は市外に在住中のこともさんのいる世帯で、Uターンや（アイ）ーターン希望との情報があれば、左記のいずれかにお知らせ願います。

- ① 宇佐市・観光まちづくり課コミュニティ係
電話 0978-2718170
- ② 津房地区まちづくり協議会・事務局
電話 0978-4812001

※ 物件情報や入居条件のお問合せ、現地案内希望など、一切の受付対応を致しますのでお気軽にお申し込みください。



ピカピカの3棟の住宅

毛無尾共有林管理会の事業報告

昨年度は共有林の境界が誰でも判るよう萱籠集落の有志4人をお願いし、通し番号を付した杭100本を打設しましたが、それに続く事業として、地区内各集落のリーダーである区長各位に呼び掛け、境界と現況を全員で確認するとともに、手分けして樹木に絡まる蔓切り作業を行いました。

12月3日（日）の午後、呼び掛けに応じた区長会長ほか9集落の区長、まちづくり協議会会長、管理担当のふるさと振興部会長と事務局の二人の計12名が、共有林管理会の専門委員を委嘱している二人（元永淳一氏と糸永好則氏）のガイドのもと、軽トラに分乗して現地入り、所定の作業を行いました。当日は小春日和の好天に恵まれ、順調に作業がはかどりました。

これまで、境界はおろか、共有林の場所さえ知らなかった区長さんも多く、立派な杉や檜が林立する我が共有林の立派さを全員が認識出来たことと併せ、後の世代に引き継いで行くうえで有意義な半日となりました。



全員での踏査状況 と 作業後の集合写真

林道-烏帽子線の維持管理作業を実施

林道・烏帽子線（通称・樺の木林道）のうち、仙人田茶屋横から烏帽子山登山口に到る約6.1kmの区間の維持管理事業をことも市より受託しました。

沿道両側の草刈り、路面の土砂・腐葉土の撤去、ほぼ全長に亘っての側溝さらえといった厳しい作業内容と低額の作業手当より地区の森林・水資源を自分たちで守るという意気込みのある協力者を募りました。

具体的には、昨年末で積極的に当事業に参加頂いた有志、現役区長、当協議会役員を対象に募ったところ、計28人（延べ工数40人日）の応募者を得ることができました。

11月20日～22日の前年より1日少ない3日間作業を行いました。去年までに比べて半月遅い取り組みとした関係で、厳しい寒さ、特に22日は小雨も降る中で作業となったにも拘わらず、ボランティア精神溢れる各位の奮闘により、見違えるほど綺麗な林道に整備されました。



ユンボを動員しての作業風景 と 綺麗な仕上がりに

六郎丸・信号機交差点付近の 道路改良工事、仕上げ中

通称・県道橋から国道500に到る間の約200メートルの道路改良は地区の永年に亘る懸案事項でしたが、この区間のうち、ことし前半に県道部分の拡幅工事が漸く実現、残すは拡幅完了部と国道の接続部分である信号機までのほんの短い距離のみとなっていました。11月に入り、この残り区間についての改良工事が始まりました。契約上の完成日は今年度末（平成30年3月末）とのことで、工事がこのまま順調に進めば、来春には歩道を備えた安全な交差点に生まれ変わり、一般通行者への利便性向上は勿論、西部各集落から通学する児童たちの安全対策に大きく寄与する筈です。竣工までの今しばらくの間、引き続き事故を起こさず、遭わないよう注意して通行しましょう！

檜本橋の橋銘板が地区公民館に！

全地区民にとって大きな朗報となった新檜本橋の全通ですが、一連の工事の最終章として、旧檜本橋の撤去工事が進んでいます。

このなか、12月20日に、工事発注者である県・宇佐土木事務所さんの粋な計らいと、多忙な中にも拘わらず施工業者である高牟礼建設さんのご協力により、旧橋の橋銘板4枚を丁寧に外して頂き、寄贈品として地区公民館へ届けられました。

高牟礼建設・取締役の中尾智幸さんから居合わせた佐藤淑子指導員に手渡されましたが、昭和37年の竣工以来、永年に亘って私たちが見慣れた愛着ある銘板を有り難く受領されました。専用の飾り枠に収め、公民館内に末代まで掲示する予定です。

